

日本中東学会ニューズレター

JAMES

NEWSLETTER

No. 102

3/28 2005

目 次

2005/2006 年度（第 11 期）評議員・役員選挙の結果.....	1
第 21 回日本中東学会年次大会.....	2
第 2 回中東学会世界大会（アンマン）のお知らせ.....	7
寄贈図書.....	8
会費納入のお願い.....	9
事務局より.....	9

2005/2006 年度（第 11 期）評議員・役員選挙の結果

2005/2006 年度（第 11 期）評議員・役員選挙の結果をお知らせいたします。

評議員選挙については、2月14日開票の結果、以下の50名が選出されました。有権者数 403、投票者数 149（うち有効票 135、無効票 14、白票 0）投票率は 37% でした。

赤堀雅幸、新井政美、飯塚正人、池田修、板垣雄三、臼杵陽、江川ひかり、大塚和夫、大稔哲也、川床睦夫、私市正年、栗田禎子、黒木英充、片倉もとこ、加藤博、小杉泰、後藤明、小松久男、近藤信彰、酒井啓子、坂本勉、桜井啓子、佐藤次高、清水学、杉田英明、鈴木董、鈴木均、鷹木恵子、高橋和夫、立山良司、東長靖、内藤正典、長沢栄治、永田雄三、長谷部史彦、八尾師誠、羽田正、林佳世子、福田安志、保坂修司、堀川徹、松本弘、三浦徹、三沢伸生、宮治一雄、宮治美江子、柳橋博之、山内昌之、山岸智子、湯川武

(50音順、敬称略)

評議員選挙に続き、新評議員による理事選挙が行なわれ、3月1日開票の結果、以下の9名が選出されました。なお、理事選挙にあたり、会則第9条の規定により、大塚和夫評議員は被選挙権を保有しないため、予め理事候補より除外されました。投票数27(うち有効票24、無効票3、白票0)、投票率は54%でした。

飯塚正人、臼杵陽、加藤博、小杉泰、小松久男、酒井啓子、長沢栄治、
林佳世子、三浦徹 (50音順、敬称略)

新旧合同理事会は4月上旬に開催される予定となっておりますところ、第11期の新体制については次号で報告させていただきます。

第21回日本中東学会年次大会

日本中東学会第21回年次大会を下記のとおり開催します。日本中東学会が1985年4月に正式に発足してから20年になります。今大会ではまず、「メディアの見た中東の20年」というテーマで中東がどのように報道されてきたかを3人のジャーナリストに語っていただきます。また、この20年の日本の中東イスラーム研究が教育面や情報の電子化の面でどのような展開を遂げて、いかなるノウハウを蓄積してきたかをそれぞれの現場から具体的に考えるパネルを組んでみたいと思います。たくさんの会員の皆様のご参加をお待ちしております！

なお、本ニュースレターに出欠確認ハガキを同封しておりますので、ご記入の上4月18日必着にてご返送ください。総会委任状を兼ねておりますので、大会を欠席される方も必ずご返送お願いします。

【大会プログラム】

5月14日(土)

12:00 登録

13:30~15:00 パネル1「メディアの見た中東の20年」

パネリスト(予定) 平山健太郎、広河隆一、モスタファ・レズラズィー

15:00~15:30 休憩

15:30~17:00 パネル2「中東研究の大技・小技」

パネリスト（予定） 大塚和夫、高階美行、林佳世子
17:00～17:15 休憩
17:15～18:00 総会
18:30～20:00 懇親会

5月15日（日） 研究発表 午前・午後を通じて5つの分科会を予定
（発表時間30分、質疑10分）

午前の部 10:00～12:10

昼休み 12:10～13:00

午後の部 13:00～17:35（休憩 15:10～15:25）

【研究発表】

分科会および発表者・発表題目は下記の通りです。なお、今後、海外からの参加申し込み、機材の使用の都合などによって、会場や時間および順序の変更があり得ますので、暫定的なものです。最終的なプログラムは4月中に送付予定の大会実行委員会からの通知でご確認下さい。

分科会 1

- 1) 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）
「在日外国人『ムスリム』の人口学的特性の変動」
- 2) 飛奈 裕美（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程）
「インティファード期パレスチナの社会変容と『子ども』のポリティクスとその可能性」
- 3) 宮崎 元裕（京都大学研修員）
「トルコにおける大学入試：高校間の入試結果の差異に注目して」
- 4) 丸山 英樹（国立教育政策研究所国際研究・協力部）
「現代トルコの学力問題と教育改革」
- 5) 森田 豊子（大阪外国語大学・鹿児島大学非常勤講師）
「ハータミー期イランの学校教育における教師の役割の変化」
- 6) 武石 礼司（富士通総研経済研究所主席研究員）
「サウジアラビア経済の構造分析」
- 7) 上山 一（一橋大学大学院経済学研究科博士課程）
「イスラム銀行論：無利子金融の実態について」

分科会 2

- 1) 井家 晴子（東京大学大学院総合文化研究科博士課程、日本学術振興会特別研

究員)

「移民と『ジャムイーヤ (Jam>¥ya)』: モロッコ王国における NGO の発展と背景」

2) 若松 大樹 (上智大学大学院外国語学研究科博士課程)

「現代トルコにおけるアレヴィーリッキ: ネヴルズ祭を通して」

3) 今堀 恵美 (東京都立大学大学院博士課程)

「ウズベキスタン商業刺繍屋の活動: ブラハ州ショーフィルコーン地区を事例として」

4) 上野 雅由樹 (東京大学総合文化研究科博士課程)

「オスマン帝国下のアルメニア教会における司祭叙階問題」

5) 宇野 陽子 (津田塾大学大学院国際関係学研究科後期博士課程)

「第一期トルコ大国民議会における反主流派『第二グループ』: 1923 年選挙を中心に」

6) 黛 秋津 (日本学術振興会特別研究員)

「国際政治から見たバルカン在地勢力: 18 世紀末のドナウ岸都市ヴィディンのアーヤーンを例として」

7) Arezoo Fakhrejehani (東京工業大学大学院博士課程)

“System of Islamic Tax (Vujihat) in Shia: Reviewing the Relation between Individual/Religion/Nation in Modern Iran”

8) 吉村 貴之 (日本学術振興会特別研究員)

「ソヴィエト・アルメニアと在外同胞: 1920 年代初頭を中心に」

分科会 3

1) 茂木 明石 (上智大学大学院外国語学研究科地域研究専攻博士後期課程)

「イマーム・シャーフィイー (767-828) の『聖者』像の形成: 10 世紀から 15 世紀を中心に」

2) 守川 知子 (日本学術振興会特別研究員)

「死者たちの聖地参詣」

3) 橋爪 烈 (東京大学大学院人文社会系研究科博士課程)

「アッバース朝前期におけるバイアとカリフ位」

4) 外山 健二 (筑波大学大学院人文社会科学系研究科博士課程)

「地図とマジョルカ島: 天上学と地上学の展開」

5) 亀谷 学 (北海道大学大学院文学研究科博士後期課程)

「初期イスラーム時代におけるカリフ概念の再検討: 称号としての『神の僕』を手がかりに」

6) 原山 隆広 (東京大学大学院人文社会系研究科博士課程)

「11世紀後半における『スルターン』概念の変遷：アッバース朝とセルジューク朝の交渉事例より」

7) 熊倉 和歌子 (お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程)

「15世紀マムルーク朝における私的土地所有の展開と国家政策」

分科会 4

1) 小副川 琢 (東京外国語大学 AA 研共同研究員、放送大学非常勤講師)

「内戦終結後におけるヒズブッラーの武装闘争とレバノン政府の対処」

2) 青山 弘之 (JETRO アジア経済研究所地域研究センター)

「シリアにおけるクルド問題：差別・抑圧の『制度化』」

3) 吉川 卓郎 (立命館大学経営学部非常勤講師)

「ヨルダン立法府『改革』の15年：1989年以降の下院における政府介入・調整の構造」

4) 高橋 陽子 (早稲田大学人間科学学術院助手)

「戦後イラクの政治勢力とメディア」

5) 横田 貴之 (日本国際問題研究所研究員)

「現代エジプトにおけるムスリム同胞団の諸活動と改革イニシアティブ」

6) 大島 史 (東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程)

「トルコ民族主義とイスラーム：1970年代民族主義者行動党のイスラーム政策を中心に」

7) Ahmad Kandil (上智大学大学院博士課程)

“The Cooperation between Japan and Saudi Arabia: The Arabian Oil Company as a Case Study”

分科会 5

1) 森下 信子 (東京大学大学院人文社会系研究科博士課程)

「イスラム思想 10～11 世紀における寓意的作品：『ケベースの絵馬』とイブン・シーナーの『ヤクザーンの子ハイイ物語』」

2) ギュレチ・セリム・ユジェル (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

「現代トルコにおけるスーフィー思想家」

3) Ibrahim Ado-Kurawa (ナイジェリア・カノ州知事特別研究アシスタント)

“Muslim Scholars and Interpretations of Islam in Kano”

4) 依田 純和 (大阪外国語大学非常勤講師)

「15 世紀東部マグリブ定住民方言の短母音組織の考察：チュニスの Laún al->□mmah 文献 "al-Jumānah fī <Izālat al-Ra<ānah" とマルタの詩

“Cantilena”を資料として」

- 5) 前田 君江 (東京外国語大学 A A 研共同研究員)

「アフマド・シャームルーの『非韻律詩』she>r-e mansur の詩学」

- 6) 森口 明美 (大阪外国語大学非常勤講師)

「コーランのアラビア語における条件詞 law の分析：古典アラビア語成立過程の解明に向けて」

< アラビア語セッション >

- 7) Samy Ahmad Sulayman (大阪外国語大学外国人教師)

“Muthaqqaf al-Nahàa al->Arabiyya wa-Ta<§¥l al-Anw@>
al-Adabiyya al-îad¥tha f¥ al-Qarn al-T@si>a >Ashara” (アラブ
覚醒 (ナフダ) 期の知識人と 19 世紀における近代的文学ジャンルの定着)

- 8) 鷺見 朗子 (京都ノートルダム女子大学)

“Waṣf al->ImErah f¥ S¥niyyat Aúmad Shawq¥” (アフマド・シャウキー
のスイーニーヤにおける建築物の描写)

【参加費など】

大会参加費 1,000 円

懇親会費 5,000 円 (学生は 3,000 円)

【大会 2 日目の昼食について】

民博内にレストランがございますが、その他に昼食をとれる場所が大会会場周辺にほとんどありませんのでご注意ください。お弁当 (1000 円) を大会実行委員会で用意いたしますので、ご希望の方は、本ニュースレターに同封されている出欠確認ハガキの「弁当 (5 月 15 日昼) の予約」の欄にてその旨をお知らせ下さい。

【アクセス】

民博は大阪府吹田市の万博公園内にあります。民博へのアクセスは、大阪モノレールの「万博記念公園」駅下車 (徒歩約 15 分) または「公園東口」駅下車 (徒歩約 13 分)、茨木駅 (JR)・茨木市駅 (阪急) からバスで「日本庭園前」下車 (徒歩約 13 分) です。詳しくは次のサイトをご参照ください。 <http://www.minpaku.ac.jp/museum/information/access.html>

なお、ご来場之际、万博公園内の自然文化園 (有料) を通過される方 (大阪モノレール万博記念公園駅からお越しの方など) は、後日送付予定の最終プログラムを同園入り口で提示されますと、無料でご通行いただけます。

【宿泊場所について】

民博近辺の主なホテルは下記のとおりです（予約は各自でお願いいたします）。

ホテル阪急エキスポパーク <http://www.htl-expopark.jp/>

ホテル日航茨木 <http://www.nikkoibaraki-osaka.co.jp/>

ホテルクレストいばらき <http://www.hotel-crest.co.jp/>

茨木セントラルホテル <http://www1.odn.ne.jp/centralhotel/welcomiba.htm>

千里阪急ホテル <http://www.senri-htl.co.jp/>

ホテルマーレ南千里 <http://www.nitto-cs.co.jp/>

新大阪江坂東急イン <http://www.esaka-i.tokyuhotels.co.jp/>

ホテルクライトン江坂 <http://www.hotwire.co.jp/e-claiton/>

【大会実行委員会連絡先】

日本中東学会第 21 回年次大会実行委員会事務局

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

国立民族学博物館 西尾哲夫研究室

Tel : 06-6878-8319 E-mail: jameet@idc.minpaku.ac.jp

第 2 回中東学会世界大会（アンマン）のお知らせ

2002 年 9 月の第 1 回世界大会（マインツ、ドイツ）ののち、世界大会の継続開催が提案され、ヨルダンの王立間宗教研究所 Royal Institute for Inter-Faith Studies (RIIFS) が受入機関となり、2006 年 6 月 11～16 日にアンマンにおいて開催されることになりました。ヨルダン皇太子ハサン・ビン・タラール殿下を議長とする世界大会実行委員会より、日本中東学会およびその会員に対し、パネルの組織や研究発表などへの参加の呼びかけの連絡がきています。

日本中東学会は、2002 年のマインツ大会では、国際交流基金の事業助成をえて、“Sufi Saints and Non-Sufi Saints”のパネルを組織するとともに、AJAMES をはじめとする日本の研究機関の出版物を展示・頒布するブースを設営しました。第 2 回アンマン大会への学会としての取り組みについては次期の理事会において検討する予定ですが、個人単位でのパネルの組織や研究発表は仮受付が開始されており、2005 年 7 月末日までに申し込むと参加費の割引があります。詳しい情報は RIIFS ホームページ（<http://www.riifs.org>）をご覧ください。

学会へ入会を希望される方は、学会ホームページの「日本中東学会について」をご覧ください。学会概要、会則、入会案内が掲載されており、入会申込フォームをダウンロードできます。また、学会事務局までご連絡いただければ、入会案内と申込フォームをお送りすることもできます。

寄贈図書

【単行本】

青柳かおる著『イスラームの世界観 ガザリーとラーズィー』明石書店、2005.
片倉邦雄著『アラビスト外交官の中東回想録 湾岸危機からイラク戦争まで』明石書店、2005.
細井長著『中東の経済開発戦略 新時代へ向かう湾岸諸国』ミネルヴァ書房、2005.

【逐次刊行物】

『季刊アラブ』No. 112、日本アラブ協会、2005.
Bulletin of the School of Oriental and African Studies, Vol. 67, Part 3, Cambridge University Press, 2004.
Newsletter, No. 65, O.I.C. Research Center for Islamic History, Art and Culture, 2004.
Yemen Update, No.46, American Institute for Yemeni Studies, 2004.

会費納入のお願い

本会は会費前納制をとっております。年度の変わり目でもありますので、2005年度分未納の方はぜひお早めにご納入ください。未納の方には郵便振替払込用紙を本ニュースレターに同封させていただきました。未納分の払込確認後、AJAMESの該当号をお送りいたしております。

事務局より

早いもので国立民族学博物館地域研究企画交流センターが日本中東学会事務局を引き受けて2年が経過しようとしています。引き受けたときには米英軍がイラク戦争を引き起こして、2003年4月にバグダードが陥落したときでした。イラク情勢は加速度的に悪化していきました。同時期、パレスチナではロードマップ和平案が提案されましたが、なんら成果をあげることなく2年間が過ぎてしまいました。ただ、分離壁の建設が既成事実として強行されつつあります。そして今、レバノン情勢が風雲急を告げています。中東情勢は常に激動しているという常套句を十年一日のごとく使わざるを得ないのは残念です。

どうなるかと思いましたが、何とか無事任期を終了できそうです。とりわけ、事務局の森尚子さんにとっては本当に激務だったと思います。帯谷知可さんは影の事務局長でした。福田義昭さん、末近浩太さん、池田有日子さん、ありがとう。皆さんに心から感謝申し上げます。

(白杵 陽)

日本中東学会ニュースレター 第102号

発行日 2005年3月28日
発行所 日本中東学会事務局
印刷所 東洋出版印刷

日本中東学会事務局

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
国立民族学博物館
地域研究企画交流センター気付
TEL & FAX 06-6878-8367
Eメール: james@idc.minpaku.ac.jp
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/index.html>
郵便振替口座: 00140-0-161096
銀行口座: 三井住友銀行渋谷支店
普通 No. 5346808